

研究教育業績（過去5年間）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) Tokumura T., Yoshida N., Mori-Yasumoto K., Shirota O. and Kurita T., Degradation rates and products of fluticasone propionate in alkaline solutions. *J. of Pharm. Anal.*, **7(5)**, 297-302 (2017).
- 2) 川上充希, 北田里華, 栗田拓朗, 徳村忠一, 小児用錠剤粉碎調剤時の乳鉢・乳棒への付着を防止する方法, *YAKUGAKU ZASSHI*, **137(8)**, 1017-1025 (2017).
- 3) Matsuyama S, Kurita T. and Tokumura T., Degradation Rate of Ebastine in an Aqueous Solution at pH 1.2 and the Effects of Cyclodextrins. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **5(4)**, 87-91 (2016).
- 4) Tokumura T., Kawakami M., Kitada R. and Kurita T., Validated Assay Method for Fexofenadine Hydrochloride in Powder Preparations of Allegra® 60 mg Tablets to Develop a New Method for Grinding Tablets on Dispensing in Japan. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **5(8)**, 359-362 (2016).
- 5) Tokumura T., Isaka H., Kanou M., Miyazaki E., Kaneko N. and Kurita T., An inclusion complex of fluticasone propionate with γ -cyclodextrin in aqueous solution and in a solid state. *Drug Del. Sci. Tech.*, **26**, 24-27 (2015).
- 6) Kino K., Nakatsuma A., Nochi H., Kiriyama Y., Kurita T., Kobayashi T. and Miyazawa H., Commentary on the Phototoxicity and Absorption of Vitamin B₂ and Its Degradation Product, Lumichrome (Commentary). *Pharm Anal Acta*, **6(8)**, doi: 10.4172/21532435.1000403 (2017).
- 7) Tokumura T., Kawakami M., Kitada R., Yamamoto H., Yamamoto H. and Kurita T., Determination of Sildenafil Citrate in Powder Preparations repared from Revatio Tablets 20 mg for Infants with Persistent Pulmonary Hypertension of the Newborn. *Sch. Acad. J. Pharm.*, **4(8)**, 370-375 (2015).

[総説]

- 1) Kurita T. and Makino Y., Novel curcumin oral delivery systems. *Anticancer Res.*, **33(7)**, 2807-2821 (2013).

[その他]

- 1) Medication liquid supporting jig and method of applying medication to micro-needle using same. US Patent 9,067,048 (2015).
- 2) 薬液担持用治具とそれを用いたマイクロニードルへの薬剤塗布方法, 特許 5514807 (2014).

2. 主な学会発表

[国内学会]

- 1) 橋本実菜, 齊藤大悟, 朝優佑, 間野綾菜, 澤口能一, 瀧沢裕輔, 栗田拓朗, 佐竹清, 岩田政則, 中島孝則, アルギン酸によるウリナスタチン膣坐剤徐放化の検討, 日本薬学会 第138年会, 3月, 金沢 (2018).
- 2) 谷岡達樹, 栗田拓朗, 中妻章, 横田ひとみ, 二宮昌樹, 徳村忠一, 自動分割分包機における吸引清掃の効果, 第56回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 10月, 徳島 (2017).
- 3) 山西慶二郎, 栗田拓朗, 森田豊, 徳村忠一, 溶出試験の観点から見る簡易懸濁施行時の溶出性, 第56

- 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会， 10月，徳島（2017）.
- 4) 松山盛士，栗田拓朗，徳村忠一，湿式粉碎での γ -シクロデキストリンのクルクミンへの効果，第56回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会， 10月，徳島（2017）.
- 5) 井宮博昭，栗田拓朗，徳村忠一，円盤型自動分割分包機から肺に到達する薬物粒子は飛散するの
か？：アセトアミノフェンでの検証，第56回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国
支部学術大会， 10月，徳島（2017）.
- 6) 堤祐二，栗田拓朗，中妻章，横田ひとみ，二宮昌樹，徳村忠一，自動分割分包機の洗浄剤の効果に対
する洗浄剤中薬物量からの考察と洗浄剤残留量の測定，第56回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院
薬剤師会中国四国支部学術大会， 10月，徳島（2017）.
- 7) 栗田拓朗，松山盛士，徳村忠一，酸性液中におけるエバスチンおよびシクロデキストリンの安定性，
第33回シクロデキストリンシンポジウム，9月，高松（2016）.
- 8) 徳村忠一，井坂ひとみ，加納愛美，宮崎英梨，金子菜都美，栗田拓朗，潰瘍性大腸炎用注腸剤開発を
目的としたフルチカゾンプロピオン酸エステル の物性測定とシクロデキストリン包接化合物の調製，第
33回シクロデキストリンシンポジウム，9月，高松（2016）.
- 9) 柴田明香，栗田拓朗，徳村忠一，アレンドロン酸ナトリウム含有経口ゼリー剤からのアレンドロン酸
ナトリウムの初期溶出性の評価とその制御，日本薬学会 第136年会，3月，横浜（2016）.
- 10) 安元あい，中妻章，横田ひとみ，二宮昌樹，栗田拓朗，徳村忠一，自動分割分包機に残留する製剤量
に関する検討：テオドール DS20%、ゾンネ、アセトアミノフェン原末、オノン DS10%、ザジテン DS0.1%
における製剤残留量の比較，日本薬学会 第136年会，3月，横浜（2016）.
- 11) 野島梨華子，栗田拓朗，森田豊，徳村忠一，カンデサルタンシレキセチル製剤の溶出性に対する簡
易懸濁法の影響について，日本薬学会 第136年会，3月，横浜（2016）.
- 12) 北田里華，川上充希，山本秀紀，山本宏，栗田拓朗，徳村忠一，錠剤の粉碎調剤に対する最適化実験，
日本薬学会 第136年会，3月，横浜（2016）.
- 13) 跡部一孝，栗田拓朗，榊原紀和，加藤善久，薬剤耐性癌細胞におけるドキソルビシン・クルクミン封
入りポソームの効果に関する検討，日本薬学会 第136年会，3月，横浜（2016）.
- 14) 松元和樹，栗田拓朗，徳村忠一，ドネペジル塩酸塩のコーンスターチ及び結晶セルロースへの吸着，
日本薬学会 第135年会，3月，神戸（2015）.
- 15) 綾野将司，栗田拓朗，森田豊，徳村忠一，簡易懸濁法が錠剤の溶出性に与える影響について，日本薬
学会 第135年会，3月，神戸（2015）.
- 16) 宮城佳紀，栗田拓朗，中妻章，横田ひとみ，二宮昌樹，徳村忠一，自動分割分包機の洗浄バリデーシ
ョンに関する検討：テオドール DS20%分包時のテオフィリン残留量の測定と2種類の乳糖の洗浄効
果，日本薬学会 第135年会，3月，神戸（2015）.
- 17) 松山盛士，栗田拓朗，徳村忠一，蒸発光散乱検出器を装着した HPLC による水溶液中のシクロデキ
ストリン類の安定性評価：pH と温度の影響，日本薬学会 第135年会，3月，神戸（2015）.
- 18) 跡部一孝，栗田拓朗，榊原紀和，牧野悠治，加藤善久，ドキソルビシン・クルクミン封入りポソーム
による抗腫瘍効果の検討，日本薬学会 第135年会，3月，神戸（2015）.
- 19) 原田志保，栗田拓朗，安元（森）加奈未，代田 修，徳村忠一，フルチカゾンプロピオン酸エステルの
アルカリ溶液中の分解速度と分解物，日本薬剤学会 第29年会，5月，大宮（2014）.
- 20) 原田志保，栗田拓朗，安元（森）加奈未，代田修，徳村忠一，フルチカゾンプロピオン酸エステルの
アルカリ溶液中分解物の化学構造，日本薬学会 第134年会，3月，熊本（2014）.
- 21) 松浦優里，栗田拓朗，徳村忠一，貧溶媒添加法による新規なクルクミン nano-suspension の調製と

その粒子径特性, 日本薬学会 第 134 年会, 3 月, 熊本 (2014).

22) 三好康平, 栗田拓朗, 徳村忠一, 口腔内崩壊錠として上市されている薬物のコーンスターチと結晶セルロースへの吸着, 日本薬学会 第 134 年会, 3 月, 熊本 (2014).

23) 渡邊尚希, 栗田拓朗, 徳村忠一, アムロジピンベシル酸塩口腔内崩壊錠の崩壊過程における賦形剤との吸着と溶出への影響, 日本薬学会 第 134 年会, 3 月, 熊本 (2014).

24) 佐藤拓洋, 栗田拓朗, 森田豊, 徳村忠一, 簡易懸濁法が口腔内崩壊錠及び速崩壊錠の溶出性に与える影響について, 日本薬学会 第 134 年会, 3 月, 熊本 (2014).

25) 西尾香子, 栗田拓朗, 中妻章, 横田ひとみ, 二宮昌樹, 徳村忠一, 自動分包機の洗浄バリデーションに関する検討: テオドール DS 20% 分包時のテオフィリン残留量の測定, 日本薬学会 第 134 年会, 3 月, 熊本 (2014).

26) 牧野悠治, 栗田拓朗, クルクミンの経口吸収促進方法, 日本薬学会 第 134 年会, 3 月, 熊本 (2014).

3. その他特筆すべき研究業績

II. 教育業績

1. 担当授業科目

2017 年度製剤材料の物性 (2 年)

2017 年度薬剤系実習 (4 年)

2017 年度薬学総合演習 1 (4 年) 4 コマ

2017 年度薬学総合演習 2 (6 年) 4 コマ

2. その他特筆すべき教育業績